

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	臨床力の東邦をめざして
別タイトル	Pursuing higher clinical ability in Toho
作成者（著者）	石河, 晃
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.07
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(4). p.209 210.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.61.209
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD72189383

教室(診療科)紹介 (93)

臨床力の東邦をめざして

皮膚科学講座 (大森)

教授：石河 晃
臨床教授：関東裕美
准教授：石井 健
医局長：橋本由起

東邦大学医学部皮膚科学講座(大森)(旧皮膚科学第1講座)は1965年8月に皮膚泌尿器科より分離独立し、石津俊教授が初代教授に就任後、安田利顕教授、石原 勝教授、露木重明教授、伊藤正俊教授が歴任され、2010年6月より石河 晃が第6代教授を担当している。地域の基幹病院として、そして教育病院としての役割を担っており、質の高い、良質な医療を提供できるよう日々努力している。皮膚科は女性医師が多く、2013年度は関連病院出向者も含め5

名の産休・育休取得者が出たが、全員なんらかの形で復職した。

診 療

大森病院は大田区70万人の人口密集地にある大学病院であり、診断困難症例、難治症例、悪性腫瘍、アレルギー精査目的など、非常に多数の患者さんをご紹介いただいている。2013年度のべ外来患者数は38123名、のべ入院患者数は5564名であった。初診時、診断確定時、入院時など節目節目で必ず紹介元へ報告書を出すことを徹底し、患者さんの状態をお知らせしながら、逆紹介につなぐよう努力している。

手術、皮膚生検にも積極的に取り組んでおり、2013年度の病理検体数は、930検体にのぼる。毎週月曜夜6時から9時まで行うカンファレンスは開業の先生、関連病院の先生も参加している。

専門外来として接触アレルギー外来(アレルギー検索・除去)、皮膚外科外来(術前評価、術後フォロー)、水疱症外来(先天性・自己免疫性水疱症診断・治療)、乾癬外来(生物製剤治療)、光線外来(乾癬、皮膚リンパ腫等の紫外線治療)、爪外来(巻き爪の矯正治療)、ニキビ・アトピー外来、レーザー外来(しみ、あざ治療)、美容外来(ニキビ治療・予防等)を行い、多彩なニーズに応えている。

教 育

学生教育については、3年の皮膚科学講義を大橋病院、佐倉病院と協力して行っており、昨年度臨床科の中でもっ



2014年4月14日、医学部一号館前に全員集合

とも良い学生評価を受けている。5年の臨床実習では外来初診患者の問診、予診を行った後仮診断を付け、初診に陪席しフィードバックを受けることで参加型の実習を実践している。病棟担当患者のレポート指導は主治医がきめ細かく対応し、また、クルズス、教授口頭試問があり、学生は充実した1週間を過ごしている。初期臨床研修は2014年度実数27名を受け入れる。後期臨床研修は専門医取得へ向けクルズスの施行、年1度の教授面談、年間研修評価を行い、最短期間での合格をめざして努力している。

研究

基礎研究では自己免疫性水疱症の発症機序の研究を行っており、ファージディスプレイ法を用いた天疱瘡抗原に対するモノクローナル抗体の合成、皮膚器官培養系を用いた光顕、電顕的観察などにより、成果を上げつつある。臨床

研究では、表皮水疱症の遺伝子診断、薬疹・接触アレルギーの原因検討、アトピー・ニキビなど炎症性疾患の皮膚角層水分量、皮脂量測定などによる病態把握、乾燥皮膚の客観的評価法の確立、乾癬患者のquality of life (QOL) 調査等を行い、昨年度の論文掲載数は国内42報、海外7報、学会発表数は国内43件、海外は6件であった。

終わりに

皮膚科は学会や研究会も数多く、非常に多忙な日々を過ごしているが、医局旅行、忘年会、新年会、納涼会、ゴルフコンペなど、レクリエーションの機会を設け、教室員の親睦を図っている。「楽しく仕事をする」ことが教室のモットーであり、臨床実習学生へのアンケートで、教室の雰囲気の良い感想として挙げてくれる学生が多いことはわれわれにとってうれしい限りである。